

平成31年度山陽学園大学・短期大学事業計画

【山陽学園大学・短期大学】

建学以来受け継いできた教育の基本理念である「愛と奉仕」の精神を基軸に、教育、研究、地域連携活動等をより一層推進するとともに、大学改革の確実な遂行及び短期大学3年コースの開設など新たな取組の円滑な導入を通じて、大学及び短期大学の活力をより高める。

特に、定員割れの深刻な状況を打開するためにも、教育の質の向上と学生へのきめ細かな指導を徹底することにより、学生の満足度を高め、学生や地域社会からの信頼を獲得する。

この事業計画は、P D C Aによる管理を行いながら推進する。

1 基本方針

- ①学生の満足度を高めるため、学生の向学意欲を喚起し、高い専門性と幅広い知識の修得を目指した教育を実施する。
- ②入学前教育から就職後のフォローアップまで、個々の学生に応じたきめ細かな支援を行う。
- ③全ての教職員が、専門知識の深化を図り業務遂行能力の向上に努めるとともに、学園の円滑な運営と発展に向けて組織的に取り組む。
- ④戦略的な地域連携の推進や広報活動により、学園の認知度を高める。

2 教育目標と実現の方策

(1) 教育目標

これまでの経験が通用しにくくなった時代にあって、新たな課題に対応しながら地域社会の発展に貢献するための専門的知識・技能を修得させるとともに、人生を生き抜くための思考力や判断力、そしてコミュニケーション能力などを身に付ける人間教育を実践する。

- ①平素の授業や学生指導を通して、豊かな人間力を養う。
 - ・山陽スタンダードや教養科目の充実、きめ細かな学生指導など
- ②専門知識・技能に加え社会人基礎力を習得させ、即戦力となる人材を育成する。
 - ・アクティブラーニングの拡充、実習の充実、就職支援科目の充実など
- ③外部の教育力も活用し、地域社会に貢献する意識を涵養する。
 - ・地域実践型授業の充実、地域連携事業の推進など
- ④異文化体験を推進し、グローバルマインドを養う。
 - ・学生の海外体験の推進、留学生との交流講座の実施など

(2) 各学科の目標と方策

①学科共通

ア 教育目標を高く掲げるとともに、授業科目の新設・廃止、必修・選択などカリキュラムや授業内容の不断の検証、見直しを行う。また、成績評価の厳正さと公正さの追求により教育の質を保証し、学修の成果が学生に実感できる教育を行う。

イ 短期大学は、次年度から導入する「3年コース」の成功に向けて、名称変更や実習をはじめとする授業体制の構築などの諸準備を的確に進める。

②各学科

ア 総合人間学部言語文化学科

- ・海外体験や外部検定などの推奨により、言語能力と異文化理解力の向上を目指す。
- ・科目の履修状況や学修成果を各コースの内容充実に反映させ、それぞれの専門性をより高めていく。

イ 総合人間学部生活心理学科

- ・初年次教育の充実により、基礎学力の向上と学修スキルの修得を図り、専門教育への円滑な移行と学修の効率化につなげる。
- ・就職を見据え、認定心理士（心理調査）、社会調査士、保育士の新たな資格の取得を積極的に促す。

ウ 地域マネジメント学部地域マネジメント学科

- ・学生の地域を知り理解する力を育成するため、地域に関わる産業や政策に関する基礎知識を学び、学外での実践を通して基礎力の充実を図る。
- ・長期の学外実習である「地域マネジメント実習」の円滑な実施のため、地域の産業界や公共団体等との関係づくりを一層進める。

エ 看護学部看護学科

- ・入学前教育、初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行を図るとともに、国家試験合格率 100%を達成するため、1年次から全教員が一丸となって計画的な試験対策を実施する。
- ・事前準備と指導体制を整え、より充実した看護実習を実施する。

オ 助産学専攻科

- ・専門書や新聞記事の精読を奨励し、専門性と人間性を高める教育を通して、周産期医療に関する幅広い知識と豊かな教養を備えた人材を育成する。
- ・国家試験対策講座や模擬試験を活用して国家試験合格率 100%を達成する。

カ 大学院看護学研究科

- ・院生の積極的な学会参加や学会発表により、看護学の動向や最新の情報を学ばせ、学修内容の充実、教育研究水準の向上を図る。
- ・教員各自が積極的に研究活動に取り組み、種々の領域が共同・協力した研究活動を推進する。

キ 食物栄養学科

- ・学生に達成感と充実感を持たせる教育を行う。このため、教育内容の改善と丁寧な学修指導に取り組み、給食管理と栄養指導に関する知識と実践力を確実に身に付けさせ、栄養士教育の質の保証を図る。
- ・社会人基礎力を育成する。このため、専門演習では参加・問題解決型の授業を積極的に取り入れる。

ク 幼児教育学科

- ・授業や個人面談をはじめ、様々な場面において、丁寧な対話と指導をすることによって学生の意欲や目的意識を高め、保育者として必要な実践力・実務能力を確実に修得させる。
- ・保育者として必要な社会的対応力や子育て支援能力を養うため、ボランティアや地域連携活動等を通して応用力や実践力を高める。

3 学生募集活動の強化

少子化が進行する中で定員確保は至上命題であり、学生募集の第一義的責任者である学部長、学科長を中心として全ての教職員が総力を挙げて取り組む。

また、高校訪問等の募集活動に際しては、学園を背負った思いを持って対応する。

(1) 募集活動の工夫等

- ・全ての教職員が本学の“強み”を共通認識して募集活動を展開する。
- ・開設2年目の地域マネジメント学部、新たに開設する短大3年コースなど本学のポジティブな取組を積極的にアピールし、本学のイメージアップと志願者の増加につなげる。
- ・志願者につながるオープンキャンパスへの参加を増やす。また、オープンキャンパスの内容の工夫とホスピタリティの発揮により、参加者の心をつかむ。
- ・高大連携の推進や個別高校を対象とした大学見学会の実施、在学生の出身校訪問の奨励などによって特定校からの入学者を増やす。
- ・県外学生の増加を図るため、中四国の重点エリアと沖縄県、九州を対象に積極的な募集活動を行う。

- ・2021年度入学生入試からの新たな入試改革の趣旨を先取りした改善を行い、多様な資質・能力を有する学生を多く受け入れる。

(2) 外国人留学生の受入れ

- ・日本語専門学校との連携により、語学力の高い留学生の受け入れに努める。

(3) 社会人学生の受入れ

- ・3年コースを含む長期履修制度を積極的にPRし、若年社会人や退職者層の入学につなげる。

特に、社会人が学び易いライフスタイルに合わせた学修システムである短期大学「3年コース」の趣旨を積極的に広報する。

- ・科目等履修生を募集するに当たっては、退職者や専業主婦に人気が見込める科目を積極的にPRする。

4 研究活動の活性化

- ・学内研究補助金制度の活用、科研費や公共団体補助金等の外部資金の獲得により、研究実績を上げる。さらに、学外共同研究の推進に取り組む。
- ・学会誌等に積極的に論文発表することで、教育研究の客観的成果を公表するとともに、パブリシティの活用により広く一般に発信する。
- ・各学科教員の積極的な投稿により、学内紀要「山陽論叢」の一層の充実を図る。
- ・教育内容は、研究成果としてまとめるよう努める。

5 学生支援の強化

アドバイザー、クラス顧問を“持ち上がり担当制”とするなど、1年次から個々の学生とより緊密なコミュニケーションが取れるよう工夫し、前後期各2回の定期的な面談指導や成績不振者の保護者懇談、就職指導を行うなど、本学ならではのきめ細かな個別指導を実施する。

(1) 学修支援の強化

- ・入学前教育、リメディアル教育、初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行と着実な学修を支援する。
- ・学修成果発表の場を増やし、学修意欲やプレゼンテーション能力の向上を図る。

(2) 生活（キャンパスライフ）支援の充実

- ・スポーツや文化活動など学生のサークル活動を支援し、学園の活力創出につなげる。また、山陽女子高の部活動との交流を推進する。
- ・近隣の高校や自治会等の大学祭への参加を働きかけなどにより、大学祭実行委員会の活動を支援し、大学祭を盛り上げる。
- ・学生の悩みごと相談については、学生相談室が第一義的窓口としての確に対応するとともに、必要な情報は関係機関が共有しフォローアップする。
- ・外国人留学生からの相談等については、共生・グローバル推進センターが第一義的窓口として対応し、必要な情報は関係機関が共有しフォローアップする。
- ・全ての人が障害の有無にかかわらず学園内で自立した生活が送れるよう、学園関係者の意識を高める。

(3) 就職支援の強化

- ・キャリアセンターと学科アドバイザー等との緊密な連携により、計画的で機動的な就職支援を行う。また、早い段階から就職への意識を高めるための「就職入門塾」や留学生のための「留学生就職ガイダンス」を開催する。
- ・優良企業等の新規開拓を行うとともに、学生のより高い目標へのチャレンジを支援し、就職内容の質の向上を図る。
- ・就職に有効な資格取得を奨励するとともに、学生の就活意欲と目標レベルをさらに高めることができるよう、就職支援科目の充実を図る。
- ・職場訪問やアンケート調査の実施などにより、卒業生の実態把握とフォローアップを行うとともに、企業との関係強化に努める。

6 地域連携の推進

(1) 公開講座等の拡充

- ・大学が有する教育資源を地域社会に還元するとともに、協定自治体との連携の推進や学園のPRも意識して、公開講座を積極的に実施する。

(2) 地域との連携事業の推進

- ・ボランティア支援・地域連携推進センターを核として、市町村等と連携した調査研究や連携事業を積極的に推進する。

(3) ボランティア活動の推進

- ・ボランティア登録制度の普及により、ボランティア情報を学生に効果的に周知する。
- ・部活単位でのボランティア活動を積極的に奨励する。

7 施設整備

- ・学生が快適に学修しキャンパスライフを過ごすことができるよう、音響設備など講義用機器の更新、Webシラバスの導入などソフト面での対応、トイレ改修、照明機器の更新などの環境整備を行う。
- ・建物の耐震化、バリアフリー化について総合的な観点から検討を行う。

8 大学運営の強化

組織的な大学運営を行い、教育方針の周知や危機管理の徹底を図るためガバナンスの強化に努めるとともに、本学のブランド再生と学生確保に向けて広報体制を強化する。

(1) ガバナンスの強化

- ・合同会議、教授会議、学科会議、各ワーキンググループ会議等が円滑に運営され、決定事項を組織内で共有し、その実現のためそれぞれの構成員は役割を果たす。また、時々課題にタイムリーに対応できるよう機動的な開催に努める。
- ・自然災害をはじめとする不測の事態を想定し、緊急連絡体制の構築や被害の未然防止策、発生時の対応などを明確にし、定期的な訓練を行う。
- ・学内でのハラスメントの防止、各方面からの苦情・意見等への対応など、教育や人権に関わる諸問題へ迅速かつ的確に対応する。
- ・大学が保有する情報の漏洩や外部からのサイバー攻撃等に対応するため、情報セキュリティ対策の強化と教職員の研修に努める。

(2) 広報活動の強化

- ・大学広報室を中心として、組織的な情報発信とマスメディア対応を行う。
- ・パブリシティを有効活用するため、マスメディアに取り上げられることを意識して情報提供の工夫やアフターフォローを行う。
- ・ホームページへの情報掲載は、タイミングを逃さず、写真や図表を活用するなどビジュアルの工夫に努める。
- ・山陽学園の校章やスクールカラーなどをあらゆる機会において前面に出すことを意識する。

(3) 教職員の資質向上

- ・全ての教職員は様々な機会（ティーチング・ポートフォリオの活用を含む）を活用して自己研鑽に努める。
- ・前向きで円滑な大学運営に資するため、計画的なFD・SD研修を実施するとともに、各部長等は所属教職員の学内外における研修機会を確保し、計画的な人材育成に努める。
- ・学外訪問者等の本学に対する好感度を高めるため、全ての教職員は別に定める「Sanyo Heartful Act」を実践する。

【短期大学附属幼稚園】

1 教育目標

自然に恵まれた環境を活かして、心身ともにたくましく、心豊かな子どもを育てる。

- ・思いやりあるやさしい子ども
- ・根気強く頑張る子ども
- ・考えて行動する子ども
- ・健康で笑顔が輝く子ども
- ・自分のことは自分でする子ども

2 教育の充実等

- ・豊かな自然との関りを通して好奇心や探求心を育むとともに、園の継承活動であるオペレッタ等を通して豊かな感性や表現力を育む。
- ・大学や地域、家庭、ボランティアなどと連携した多様な学びの場を通して、園児に心の通う人間関係の素地を養う。

（大学との連携） 歯磨き指導、手洗い指導、英語教育、保護者向け講演会など

（地域等との連携） お茶会、陶芸、餅つき、野菜作りなど

- ・新学習指導要領に位置づけられた英語学習を大学と連携して充実し、特色教育の一つとする。
- ・「クラス便り」の充実や家庭・地域と連携した活動の実施により、園の教育内容の発信に努める。
- ・幼保連携型認定こども園への移行を視野に、満3歳児保育、預かり保育時間の延長などを進める。
- ・教員の専門知識・技能を磨くため、計画的な研修を実施する。

【 数値目標 】

【定員の確保】	
1. H32 年度の入学定員を 100%確保する。	
大学 (H28 入学) 75.5% (H29) 76.5% (H30) 105.5% (H31) 103.5%[仮]	
短大 (H28 入学) 68.3% (H29) 64.4% (H30) 60.6% (H31) 66.7%[仮]	
2. 志願者数の合計を 10%増やす。	
(H28 入学) 521 人 (H29) 434 人 (H30) 511 人 (H31) 560 人[仮]	
3. 志願度の高い特推、一推、AO入試による入学者を 250 人以上確保する。	
(H28 入学) 192 人 (H29) 192 人 (H30) 209 人 (H31) 251 人[仮]	
4. 山陽女子高からの入学者を 50 人以上確保する。	
(H28 入学) 33 人 (H29) 34 人 (H30) 45 人 (H31) 45 人[仮]	
【教育の充実】	
5. 中途退学者・除籍者の割合を 3.0%以下にする。	
(H26) 4.2% (H27) 3.8% (H28) 4.8% (H29) 5.3%	
6. 全学生の GPA 平均値を 2.4 ポイント以上とする。 ※GPA 値 = (授業科目の単位数×授業科目の評価点) / 授業科目の単位数	
(H28 前) 2.3 (H28 後) 2.4 (H29 前) 2.4 (H29 後) 2.3 (H30 前) 2.4	
7. 学生による授業評価が 3.9 ポイント以上の授業の割合を 90%以上とする。(専任教員の授業)	
(H28 前) 84.1% (H28 後) 86.7% (H29 前) 79.7% (H29 後) 80.5% (H30 前) 94.5%	
8. 学修成果発表の機会を各学科で 2 回以上設定する。	
9. アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が 80%以上になるようにする。	
(H29) 51.5%	
【資格取得の推進】	
10. 看護師国家試験の合格率 100%を達成する。	(H27) 92.5% (H28) 88.6% (H29) 100%
11. 保健師国家試験の合格率 100%を達成する	(H27) 87.5% (H28) 88.9% (H29) 80.0%
12. 助産師国家試験の合格率 100%を達成する。	(H28) 100% (H29) 100%
【希望する就職の実現】	
13. 全ての学科で就職率を 100%にする。	
(H29) 言語 100%、生活 100%、看護 100%、食栄 100%、幼教 100%	
14. 専門職への就職率を 80%以上にする。[食栄]	(H27) 75.9% (H28) 67.2% (H29) 77.8%
専門職への就職率を 95%以上にする。[幼教]	(H27) 88.7% (H28) 86.9% (H29) 96.4%
【研究活動の活性化】	
15. 外部資金(科研費等)を 15 件以上獲得する。	
(H28) 8 件 7,613 千円 (H29) 9 件 4,976 千円 (H30) 9 件 7,467 千円[仮]	
16. 全ての教員が論文等の発表 1 件以上又は学会発表 1 回以上を行う。	
【地域連携・地域貢献の推進】	
17. 大学・短大が主催(共催)する地域との連携事業を 30 件以上実施する。	(H30) 32 件[仮]
18. 学生のボランティア参加人数を延べ 300 人以上とする。	(H30) 280 人[仮]
【その他】	
19. パブリシティによる情報発信を年間 150 件以上行う。	(H29) 140 件 (H30) 150 件[仮]
20. 図書貸出冊数を学生一人当たり 15 冊以上とする。	(H27) 12.2 冊 (H28) 14.9 冊 (H29) 14.0 冊